# Liv-exデータ、高級ワイン取引が主要購入地域すべてで減速

2023年11月以降で最も活況となった月の後に市場は反落したが、高価格帯のブルゴーニュ銘柄には引き続き買い手が集まった

2026年11月10日（火）



Liv-exが11月9日（月）に公表した最新の週次データによると、高級ワインの取引は減速した。市場は2023年11月以降で最も活況となった月を記録した後、主要な購入地域すべてで買いが減少した。一方、高価格帯のブルゴーニュワインは引き続き活発に取引された。

Liv-exによると、直近の週は4つすべての購入地域で、前週より購入量が減少した。10月の活況を経て取引が軟化したことを示す動きだが、高額銘柄の一部では市場の活発さが保たれた。また、地域別の構成比は、すべてのカテゴリーが同じ方向に動いたのではなく、変化した。

取引額で市場最大の割合を占めたのは引き続きボルドーだったが、シェアは前週の41.4%から32.0%

に低下した。Liv-exによると、同地域で取引額が最も大きかったのはMouton Rothschild、Lafite Rothschild、Petrusで、いずれも週次のボルドー取引額の10%超を占めた。

週内の大口取引には、ボルドー以外のワインも複数含まれた。Liv-exによると、LeroyのRichebourg 2015、Mouton Rothschild 2023、そして2013年と2014年ヴィンテージのRomanée-Contiが、取引額ベースの全体上位5銘柄に入った。

取引額のシェアでブルゴーニュはボルドーに続き、26.3%を占めた。同地域では高価格帯のボトルが取引を牽引し、LeroyのRichebourg 2015とRomanée-Contiの2ヴィンテージが、市場全体で取引額の大きい銘柄に名を連ねた。全体の購入が減少するなかでも、買い手が人気の高いブルゴーニュ銘柄に資金を投じる姿勢を保っていたことがうかがえる。

シャンパーニュの取引額シェアは、前週の8.5%から12.5%に上昇した。Liv-exによると、このカテゴリーではノンヴィンテージと流通量の多いワインが取引を牽引した。希少で高価格帯のボトルが取引の中心だったブルゴーニュとは異なる動きだ。

トスカーナとピエモンテのイタリアワインは、合わせて取引額の14%を占めた。取引額で最も大きかったイタリアワインはSassicaiaで、2008年ヴィンテージは全体の上位5銘柄に入った。Liv-exによると、Soldera Case BasseとGajaも活発に取引された。

週次の高級ワイン取引の動向は、高級ワイン市場の流動性や需要を直接把握する手掛かりとなるため、コレクターだけでなく、販売業者、流通業者、投資家にとっても重要だ。活況だった月の後に購入総額が減少すれば、買い手の選別が強まっている可能性がある一方、ブルゴーニュの主要銘柄の堅調さとシャンパーニュのシェア拡大は、価格設定や在庫判断、プレミアム飲料のどの分野で需要が持ちこたえているかについての見通しに影響し得る。

Liv-exは、主要銘柄全般からの広範な買い控えが起きているとは述べていない。むしろ週次の概況が示したのは、活況が続いた後に市場が落ち着く一方、取引額はMouton Rothschild、Romanée-Conti、Leroy、Sassicaiaなど、比較的少数の定評ある銘柄に集中し続けたという状況だ。Liv-exによると、Soldera Case BasseとGajaも活発に取引された。